# JICAは福島を応援しています！～震災後からこれまで～

このたびの東日本大震災により亡くなられた方々へご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。
ＪＩＣＡ二本松では、通常ＪＩＣＡボランティアの派遣前訓練を行っていますが、福島県からの要請に基づき、３月 14 日より避難所として開放し、避難者の方々の生活をサポートしています。
福島県庁及び関西広域連合の一環として、滋賀県庁の各職員が行政サービスを提供し、ＪＩＣＡはこれを支援する体制で運営しています。また、ＪＩＣＡとして職員のほか、チュニジア、エジプト、シリア、ブルキナファソ等の政情不安地域より、日本へ一時退避中のＪＩＣＡボランティアから希望者を募り、２週間交代で活動しています。

| | |
|---|---|
| 3月11日 | 震災発生 |
| 3月14日 | 福島県からの要請を受け、ＪＩＣＡ二本松にて避難者の受入れを開始しました。 |
| 3月16～17日 | ＪＩＣＡ本部から第１陣支援要員が到着（以降、継続して派遣しています。） |
| 3月18日 | 1 住民参加型のワークショップ「みんなで快適に過ごすためのルール作りの会議」を開催…消灯時間やゴミ出しのルールを話し合いました。また避難者間でメッセージを記入するノート「絆」を設置しました。 |
| 3月19日 | ワークショップの結果をふまえて、キッズルームと勉強部屋を開設。この頃から炊き出しが始まり、時折あたたかい食事が取れるようになりました。 |
| 3月20日 | 洗濯機及び乾燥機の提供開始 |
| 3月20～21日 | 医療相談、歯科診療 |
| 3月22日 | 朝の体操開始（朝 6:25 ～ 35 までＮＨＫ教育テレビを見ながら実施） |
| 3月23日 | 早朝にも暖房が入ることに…それまで燃料不足から夜の３時間のみでしたが、早朝の寒さ対策のため、24 日から運転を開始することになりました。また、福島県県北教育事務所カウンセラーによる巡回相談を開始しました。 |
| 3月24日 | 福島県警本部生活安全課による巡回開始（以降、各県からの警察による巡回開始） |
| 3月26日 | 施設内に健康管理コーナーを設置 |
| 3月27日 | 2 ＪＩＣＡ職員による学習支援を開催…小学生対象に勉強会を開催しました。その他、福島県県北保健福祉事務所の保健師等による巡回相談を開始しました。 |
| 3月29日 | ふくしま青年海外協力隊の会のメンバーによる、高齢者向け健康体操を実施しました。 |
| 3月31日 | 福島県立医科大学巡回医療チームによる巡回診察を実施しました |
| 4月4日 | 住民リーダー・県・市・ＪＩＣＡの合同会議を開催…緊急支援から、生活再建・基盤整備・生活支援の段階に入り、新たなニーズとして就学・生活の質の向上に関する要望が多く寄せられました。同日、徳永久志外務大臣政務官が来所されました。 |
| 4月5日 | 避難所支援のため配置されていた二本松市役所職員の配置を終了し、福島県職員の配置が始まりました。 |
| 4月6日 | スクールバス（中学生向け）の供用を開始し、ＪＩＣＡ義援金により調達した野菜等の食料を提供しました。 |

1

2

## ＊避難所の中の工夫

キッズルームを設置

通路にある読み物コーナー

様々なイベントが目白押し！

ＪＩＣＡボランティアによるお菓子作り

## ＊ゴールデンウィーク

ゴールデンウィークの間は、施設内でさまざまなイベントが行われました。

## ＊炊き出し＆物資提供

避難所として開放後、徐々に市民や企業などによる炊き出しが行われるようになりました。汁物やお好み焼き、ビーフシチューなどメニューは様々です。物資は、子ども用品や化粧品、衣類、下着などの生活必需品を提供いただいています。

渋川市名産のこんにゃくを使ったおでんなど

▲物資保管場所の様子

▲郷土料理の提供

温かいラーメン

手書きのポスターで宣伝

5

6

◀出来上がった作品の数々

3

訓練所には１歳から 80 代の高齢者まで、幅広い年齢層の方々が集まっています。
ピーク時には 453 名を受け入れましたが、５月末日現在では 143 名となっています。

4

| | |
|---|---|
| 4月7～8日 | ＪＩＣＡボランティアが支援活動を開始…訓練所内の避難者への支援活動と共に、二本松市社会福祉協議会と連携し、炊き出しや、他の避難所へ移動する高齢者・障がい者の補助を行いました。 |
| 4月8日 | 子どもたち向けに自習室の提供を開始。 |
| 4月9日 | 体育館の開放開始。 |
| 4月10日 | 3 住民によるクリーンアップを実施…住民による施設周辺のゴミ拾いを実施しました。行政サービス支援のため、滋賀県職員の配置が始まりました。 |
| 4月11日 | 4 震災後１ヶ月が経過…地震発生時刻の 14:46 に黙祷を行いました。 |
| 4月12日 | 避難住民名簿の整備完了。滋賀県職員による所内放射線量の測定を開始。 |
| 4月13日 | 住民の健康改善のため、ラジオ体操を開始。 |
| 4月15日 | 5 ＪＩＣＡボランティアによる子ども向け工作教室を実施。宮城県内の被災地に向け、ＪＩＣＡ公用車（ミニトラック）を貸出しました。 |
| 4月16日 | 避難訓練実施 |
| 4月17～20日 | 行政サービス支援のため、長崎市役所の職員を配置。 |
| 4月23日 | 福島県から避難住民に対し、ＪＩＣＡ二本松施設の供用が７月末までとなる旨を説明。 |
| 4月26日 | 福島県立医科大学によるエコノミークラス症候群のエコー検査 |
| 4月29日 | ゴールデンウィークイベント開催…ＪＩＣＡボランティアによるお菓子作りを始めとして、期間中には様々なイベントが開催されました。 |
| 4月30日 | 6 住民主催の花見会を開催…岳温泉付近の桜がちょうど見ごろとなりました。 |
| 5月1日 | 福島医療専門学校の教員らによる整体および鍼灸治療を実施しました。 |
| 5月2日 | シャワーの供用開始 |
| 5月5日 | 住民代表メンバー（10 名）と福島県でミーティングを実施…震災後約 50 日が経過しました。避難所の状態は、受入れ直後に比べて落ち着きが見られること、人数も当初の半分以下となったこと等、現状の把握や今後の課題について、意見交換を行いました。 |
| 5月9日 | ＪＩＣＡボランティアによる「ふれあい喫茶」を開始。夕食の提供が始まりました。 |
| 5月13日 | カラオケルームの提供を開始。 |
| 5月20日 | ペットルームの提供を開始。 |
| 5月25日 | 朝食及び昼食の提供を開始（3 食の提供開始）。 |

※多くの方々にご協力いただきましたが紙面の都合上、主なイベントのみを掲載しています。

## ＊避難所運営

現在、行政サービスを担当されている福島県と滋賀県の方々に、コメントをいただきました。滋賀県の深尾さんによると、避難所での主な業務は、支援物資調達や名簿の更新などの手続きを担っており、これから夏に向けて必要物品にも変化が生じてきているとのことでした。
一方、福島県運営責任者である県災害対策本部の鈴木大介さんは「県として最後まで責任を持って対応します」と話してくださいました。

（取材日：５月 11 日、26 日　記：清海）

▲後列左から、鈴木大介さん（福島県災害対策本部）、安澤実さん（福島県生活環境部青少年育成室）、前列左から野田保徳孝さん（用地対策室室長補佐）、齋藤敦さん（福島県企業局販売推進課主査）、大久英男さん（滋賀県土木交通部監理課技術管理室主幹）
〈撮影５月 26 日〉

▲深尾典久さん（滋賀県工業技術総合センター：写真右、北川良治さん（滋賀県東近江農業農村振興事務所課長補佐：写真左）〈撮影５月 11 日〉

## ＊ふれあい喫茶

ＪＩＣＡボランティアの大嶽郁美さん（チュニジア派遣待機中）が中心となり、施設内食堂付近の通路スペースに「ふれあい喫茶」が登場しました。ニットデザインの仕事をしていた大嶽さんは、かぎ編みで作ることのできるコースターやアクリルたわし、帽子やシュシュを紹介し、作り方を教えながら、みんなで和気あいあいと集まっておしゃべりできる場所を作りました。喫茶という名前のごとく、お茶やコーヒーも用意され、通りがかる人たちが立ち寄って、お茶を飲みながらおしゃべりすることができます。
大嶽さんによると「散歩帰りのおばあちゃん達が立ち寄ってくれました。だんだん若いお母さんたちも輪に入ってくるようになり、男性も参加されたんですよ」とのことです。参加者が一つ作品を仕上げると、大嶽さんが写真を撮って付近の柱に掲示します。これにより、誰がどんなものを作ったかが一目でわかり、作った本人から記念として喜ばれるとともに、新たに人を呼び込む宣伝になっていました。
参加者の一人は、「ここにきて編み物を習うとは思わなかった。自分で用具を買って、引越ししてからも続けたい。」と話してくれました。

（取材日：５月 11 日　記：国際協力推進員清海）

参加者が作品を作り終えると、大嶽さん（右上）は写真に収めます。この方は手首にはめているシュシュを作りました。

撮り終わった写真は、喫茶スペース付近に掲示。これを見て参加者のみなさんが喜ばれていました。